

令和3年度（今年度）の学校評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>① 開かれた学校 ・情報発信：HPの改善、ブログの質の向上、新聞や広報等のメディアの活用等 ・学校公開：PTA活動の充実、全体説明会、学級・部別懇談、授業参観、 学校関係者評価委員会等</p> <p>② 教育活動の一層の充実と授業改善（理想：優劣のかなたに） ・授業の充実（授業検討会の実施、特色ある教育活動の創設、 ICT機器の導入と効果的な使用法の研究） ・PDCAサイクルの「C＝評価」に重点。 教育活動の見直し（おかりょう授業チェックシートの活用）</p> <p>③ 正しい日本語の力を身につけた幼児児童生徒の育成 ・口話と手話を併用する学校における、日本語力向上のための指導方法の研究 ・読書環境の充実（図書館の整備、貸し出し図書の実施、本の読み聞かせの実施）</p> <p>④ 教職員の多忙化解消に向けて業務の改善と効率化 ・解錠、施錠時間の徹底、土日の出勤原則「0」、書類の簡略化、会議の持ち方の工夫等 ・ライフワークバランスの良い働き方の実現（目標：残業45h未満/月、年休取得5日以上）</p>		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
<p>幼稚部</p>	<p>友達や先生と楽しくやりとりをしながら、日本語の基礎を身に付ける。</p>	<p>・多くの幼児が興味をもてるような話題を取り上げ、幼児同士が質問し合ったり、教え合ったりする場面を日常的に設定する。 ・押さえない言葉の口声模倣を適切なタイミングで繰り返し促し、視覚的に残るように文字を併せて提示したり書いたりする。</p>	<p>・幼児同士がやりとりできるように、教師に伝えたことを友達にも伝えるように促したり、相手に伝わる表現を教えたりする。 ・幼児が楽しみながら繰り返し口声模倣できるように、教材や場面設定を工夫する。</p>
<p>小学部</p>	<p>友達とのやりとりや話し合い活動による対話的な学習を積み重ね、基礎学力の向上を図る。</p>	<p>・自分の考えを表現したり、友達と話し合ったりする活動を多く設定する。 ・話形や学習規律を分かりやすく提示する。</p>	<p>・自分の考えを可視化するための教材を工夫したり、必要な表現を教えたりして、児童の言語活動を支援する。 ・授業の中で児童の実態に応じた発問をしたり、課題を提示したりして、児童の発言を引き出す。</p>
<p>中学部</p>	<p>中学生としての自覚を促し、学びの態度と学力の向上を図る。</p>	<p>・授業規律を重視し、授業の月目標を各学級で生徒が話し合って決定し、振り返りを行う。 ・課題や授業の予習復習の取組方を具体的に指導し、家庭学習の習慣化を図る。</p>	<p>・取組状況や振り返ったことを掲示し、次に生かす。 ・生徒が主体的に考え、達成感をもって取り組めるように配慮する。 ・家庭との連携を図り、課題の提出状況や学習の様子をしっかりと保護者に伝える。</p>
<p>高等部</p>	<p>卒業後の生活を見据えた学力の向上を図る。</p>	<p>・分かる授業を展開し、授業力の向上を図る。 ・授業の様子やテスト結果等を分析し、具体的な学習方法を指導したり、希望する進路を踏まえた課題を与えたりする。</p>	<p>・授業において目標・評価を中心にPDCAサイクルを意識し授業チェックシートを活用する。 ・生徒が主体的に考え、継続して学習に取り組み、生涯学習に結び付けるようにする。 ・家庭との連携を図り、学校及び家庭における学習への取組状況や指導・支援方法を保護者に伝える。</p>

教務部	I C T機器やデジタル教材を活用して、分かる授業を展開する。	・I C T機器やデジタル教材を活用できるように情報提供をしたり研修会を開催したりする。	・授業におけるP D C Aサイクルを意識できるように、分析シートや授業チェックシート等を作成し、活用する。 ・授業研究会や、部間での情報交換を密にし、各自のよい実践を共有し、授業実践に生かす。
生徒指導部	いじめ防止に関する啓発活動を充実させ、思いやりのある人間関係の育成を図る。	・定期的なアンケート調査、相談を実施し、子どもたちの悩みを把握し、未然防止に努める。	・児童会生徒会が行う、いじめ防止に関する啓発活動をブログ等で分かりやすく発信する。 ・アンケート調査を通して子どもたちの小さなサインを見逃さないようにし、実施方法や結果を懇談等で確認する。
保健体育部	感染症対策を含め、自ら考えて体調管理ができる幼児児童生徒を育成する。	・集会での講話、たより、ブログ等を活用し、健康課題及び改善策を具体的に幼児児童生徒や保護者に示し、理解を促す。	・教師と保護者が同じ思いで幼児児童生徒の健康課題に取り組めるように 連絡帳等の連絡ツールを使ったり、対話をしたりして相互の情報共有を丁寧に行う。
進路・地域支援部	幼児児童生徒の社会的・職業的自立を目指したキャリア教育の充実を図る。	・幼児児童生徒がマナーや規範意識を身に付けられるように、教員が日々の生活でキャリア教育を意識して支援する。 ・通級における指導では、各自の進路や障害認識を留意したキャリア教育を行う。	・キャリア教育全体計画をもとに、幼稚部から高等部までの連続性を考慮した支援を具体的に示して教員の意識を高める。
自立活動・研修部	豊教育の専門性を高める研修の充実に努め、幼児児童生徒の正しい日本語力の向上を図る。	・助詞の指導を学校全体で継続していくとともに、指導方法や内容など具体的な取組について情報の収集や提供、研修を行い、部や全体で確認していく。	・実態に合わせながら学校全体で取り組んでいく。 ・研修情報、研修内容等は全職員で共有し、活用できるように保管する。
寮務部	発達段階に合ったマナーや生活態度を身に付ける。	・寄宿舎のルール of 意義について舎生同士で考えたり話し合ったりする機会を設ける。 ・家庭や学級担任との連携を密にし、つながりのある指導を心掛ける。	・指導員が講話を行うだけでなく、舎生が話し合い自ら考える活動を多く設定する。 ・一人一人の発達段階に応じた方法を工夫する。 ・寄宿舎での出来事を保護者に丁寧に説明し、その上で最善の方法をともに探っていく。その際には、学級担任や関係職員と十分に話し合う。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	①HPやブログの内容が充実している。 ①全体・学級・部別懇談会等で、分かりやすい説明がなされている。 ②I C T機器が教育活動で有効に活用されていて、幼児児童生徒が授業中にI C T機器に触れる機会が多くある。 ③日本語力向上を意識した教育活動が営まれている。 ③図書館が整備され、貸し出し図書が充実するなど、読書環境が整っている。 ④教職員の業務の改善と効率化を図った結果、施錠時間を徹底したり勤務時間外従事時間を短縮したりすることができている。		

令和2年度（昨年度）の学校評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>① 開かれた学校 ・情報発信（HPの改善、ブログの質の向上、新聞や広報等のメディアの活用等） ・積極的な学校公開（保護者への説明の充実、PTA活動の充実、部公開、学校関係者への公開、地域社会への公開）</p> <p>② 教育活動の一層の充実と授業改善 ・新学習指導への対応（学習環境の整備、既存の活動の見直し、特色ある教育活動の創設） ・PDCAサイクルの「C＝評価」に重点を置いた、授業の見直し ・ICT機器の積極的な導入と効果的な使用法の研究</p> <p>③ 正しい日本語の力を身につけた幼児児童生徒の育成 ・授業力の向上とそのため専門性の向上 ・口話と手話を併用する学校における、日本語力向上のための指導方法の研究</p> <p>④ 教職員の多忙化解消に向けて業務の改善と効率化 ・解錠、施錠時間の徹底、土日の出勤原則「0」、書類の簡略化、会議の持ち方の工夫等 ・仕事と家庭の両立ができるようなバランスの良い働き方の実現</p>		
<p>項目 (担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>幼稚部</p>	<p>友達や先生と楽しくやりとりをしながら、日本語の基礎を身に付ける。</p>	<p>・話が伝わってうれしい、相手の話が分かって楽しいと思える経験を積めるように多くの伝え合う場面を設定する。 ・手話でイメージを捉えるとともに、口声模倣や拡充模倣を丁寧に行い、日本語へ結び付ける。</p>	<p>活動内容や教材等を工夫して、伝え合う場面を多く設定したり、教師が個に応じた支援をしたりしたことで、教師や友達と楽しくやりとりする場面が増えた。今後も適切な場面で口声模倣や拡充模倣を繰り返し促したり、文字を併せて提示したりすることで、日本語に結び付けられるようにしていく。</p>
<p>小学部</p>	<p>自分で考え、進んで学ぼうとする学習態度を育み、基礎学力の向上を図る。</p>	<p>・児童の主體的な態度を引き出す学習活動を展開する。 ・多角的な児童の実態把握を行い、児童の躰みや思考過程を想定した授業の展開や指導計画を立てる。 ・自分の考えを表現したり、友達と話し合ったりする場面を単元の中に設定する。 ・家庭学習や自主学習の取り組み方を指導する。</p>	<p>授業中に対話タイムや意見や考えを発表する場を設定した授業が多く行われるようになり、児童が自分の立場を明確にして意見を述べるようになってきた。しかし、児童が主體的に考え、学ぼうとする態度に結び付いていない。教師の発問も含め、活発なやりとりのある授業づくりに継続して取り組みたい。宿題の提出状況は概ね良好だが、取組状況を把握し、個別の指導支援を継続していく。</p>
<p>中学部</p>	<p>中学生としての自覚を促し、学びの態度と学力の向上を図る。</p>	<p>・授業規律を重視し、授業の月目標は各学級で生徒が話し合っていて決定し、振り返りの機会をもつ。 ・課題や授業の予習復習の取り組み方を具体的に指導し、家庭学習の習慣化を図る。</p>	<p>生徒自身が月ごとに授業目標を決め、前向きに授業に取り組み、振り返りを行うことができた。今後も生徒自身が主體的に考えた目標を基に学ぶ意欲を高め、学力の向上を目指す。</p>
<p>高等部</p>	<p>卒業後の生活を見据えた学力やコミュニケーション能力を養う。</p>	<p>・授業の様子やテストの結果等を踏まえて、具体的な学習方法を指導する。 ・希望する進路を踏まえた課題を与える。 ・学校生活全般を通して、相手を意識したやりとりができるように指導する。</p>	<p>各教科担任が模擬試験等の分析を踏まえた指導を行い、個の進路希望に合わせて課題を設定したが、生徒自身が教えられた学習方法等を実行し継続できるような指導が不足していた。今後も検定等積極的に勧め身近な目標をもたせ学力の向上を図っていきたい。また、学校生活全般を通してその場に合った言動について考える機会をもった。将来社会人としてどの様な言葉遣いや振る舞いをしていかなければならないかを意識させながら指導していく。</p>

<p>教務部</p>	<p>アセスメント資料や評価等を基に授業改善を行い、幼児児童生徒の学力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなアセスメント資料を基に幼児児童生徒の実態や学習の定着具合を的確に把握し指導計画を立てる。 ・定期考査や各種テスト等の結果を分析し、日々の指導に生かす。 ・分かる授業を展開する。 	<p>コロナ禍による制約がある中でも、授業展開やまとめを工夫するなどして、分かる授業を展開することができた。また、それらの様子を授業参観等で保護者に知ってもらうことができた。各部において、各種検査の結果や、模擬試験の結果等を分析し、個に応じた手だてを講じた。しかし、幼児児童生徒の学力の向上に直結したとは言いがたい。次年度は検査の種類や分析方法を見直すなどして幼児児童生徒の学力の向上を図りたい。また、職員間で他部の授業を参観する機会があまりなく、他部の様子を知る機会が少なかった。次年度は部間で授業を参観しあう機会を設けるなどして、職員間の連携を図り、幼稚部から高等部までである学校の特色を生かした教育活動を展開できるようにしていく。</p>
<p>生徒指導部</p>	<p>いじめがなく思いやりのある人間関係の育成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会生徒会活動など、子どもたちの主体的な行動を通し、いじめ防止の意識を高める。 ・定期的なアンケート調査、相談を実施し、子どもたちの悩みを把握する。 	<p>生活アンケートを実施し、子どもたちの悩みやストレスを把握する取組や、児童会・生徒会によるいじめ防止に関する啓発活動を行ったが、残念ながらいじめや嫌がらせは起きた。子どもが発する小さなサインを見逃さないようにより一層子どもたちの動きを細かく観察し、必要に応じて声を掛けて未然防止に努めていく。また、トラブルの形態も SNS 上の見えにくい場所で起きるケースがあった。ネットいじめの現状を把握するためには、家庭の理解と協力が不可欠となるので連携を密にし、早期発見・早期対応に努めていく。子どもたちには具体的な例を挙げて分かりやすく説明していくとともに本校が取り組むいじめ防止に関する啓発活動を分かりやすく情報発信していく。</p>
<p>保健体育部</p>	<p>健康的な生活を送るための実践力の向上を図る。 学校美化活動の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健、食育だよりを通じて、健康的な生活を送るための知識を広める。 ・部朝会等の集団活動や給食指導の時間等を活用し、食に関する指導を中心に心身の成長や健康を自ら管理できる能力の向上を図る。 ・各部、職員、保護者の美化活動をブログ等で紹介し、学校全体で取り組む意識を高める。 	<p>各種たよりを配布及びホームページに掲載するなどして保健、食育に関する情報を積極的に発信し、健康の保持増進に寄与するように努めた。今年度は新型コロナウイルス感染症に関する関心も高く、発信する内容も関連したものになった。各種たよりの活用状況については、クラスによりまちまちであるので、今後は積極的に学活等で取り上げて活用するように促す。今年度は、感染症対策として給食中に積極的な指導ができない状況であったが、第2回学校保健委員会朝食を取り上げて指導を行うことができた。食育指導については、栄養教諭や養護教諭を活用した効果的な指導に努める。 美化活動の様子やふだんの清掃の様子をブログで紹介し、学校全体で気持ちよく過ごせる環境を整えていることを発信する。家庭と学校で子どもの情報を共有するなど丁寧な対応に努め、保護者が安心して子どもを通学させられるようにしたい。</p>
<p>進路・地域支援部</p>	<p>幼児児童生徒の社会的・職業的自立を目指したキャリア教育と保護者や関係諸機関への支援の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人・保護者との丁寧な進路相談や必要な学力や必要な力の分析を通して、適切な情報提供や指導を計画的に行う。 ・幼稚部から高等部までの連続性と障害の個人差を考慮したキャリア教育を展開する。 ・保護者や関係諸機関（企業、 	<p>幼稚部から高等部までの連続性を踏まえたキャリア教育については、職員のキャリア教育に対する認識不足が見られ、まだ十分とは言えない。次年度は、各部の進路指導の内容の情報交換を行い、各部の職員が高等部卒業後のイメージをもって指導できるようにする。また、職員がキャリア教育全体計画の各部の目標を日常生活や授業で支援</p>

		<p>大学、地域の学校、幼稚園・保育園、医療保健センター等)と情報交換の場を設け、連携を深めて、個に応じた支援の充実を図る。</p>	<p>できるよう教員に取組の具体例を示すなど啓発していく。保護者や在籍校に対する支援の維持と充実を図ることは、新型コロナウイルスの対応で変更が重なることもあったが、計画通りに実施することができた。指導記録や懇談を通しての情報交換や連携に加えて、今後は、通級指導や教育相談に関わるたよりをホームページにアップするなど地域校が必要としている情報を公開していく。</p>
自立活動支援部	<p>聾教育の専門性を踏まえた授業研究の充実に努め、授業における技量を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のニーズを聞き、聾教育の専門的な指導ができるような研修を設定したり情報発信をしたりする。 ・全員が2年に1回研究授業、授業検討会を行うよう推進し、そこでの話し合いや情報交換を行うことで、授業改善に生かす。 	<p>たよりの提示版で自立活動に関して幅広く情報を発信したり、動画・オンラインの研修を取り入れたり、研究グループを主とした授業検討会等を行ったりしたことで専門性の向上を図った。しかし、全体としての授業研究の充実、専門性と技量の向上に向けての取組としてまだ十分ではなかった。次年度は今年度有効であった外部オンライン研修も積極的に活用していく。授業における技量を更に高めるため、2年の1回の研究授業を継続するとともに、それに伴う授業研究会等の情報や有効な手だて、指導方法を学校全体で共有や実践ができるようにしていきたい。また、各部の自立活動に関する取組を部で周知の上、懇談、たより、掲示板等で保護者にも伝えていく。</p>
寮務部	<p>規則正しい生活を通して生活リズムを整え、社会生活に必要なルールやマナーを身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・舎生一人一人の目標を設定し、舎生会や担当会で寄宿舎生活を振り返るようにする。 ・家庭との連携を密にし、寄宿舎で取り組んだことを家庭でも生かせるようにする。 	<p>日常及び長期休業前に生活目標を立て、実行し、振り返りを行うことで自らの生活習慣を見つめ直す機会を多く設定した。生活年齢が高い高等部の舎生については、規則正しい生活習慣を身に付けられたという自己評価が多くなった。小学部、中学部では、寄宿舎生活で学んだルールやマナーを日頃の学校生活の中で役立てることにつなげられなかったという反省があった。そのため、①舎生一人一人に将来の社会生活をイメージさせる指導を繰り返し行うこと、②寄宿舎での目標と取組を保護者や学級担任と共有し、寄宿舎生活で身に付けた力を社会でも発揮できるように連携していくことを今後の課題として取り組んでいく。</p>